



Syngentaの宿根草～栽培編

宿根草の開花調整は難しい？

宿根草の開花調整は難しいです。

その原因は開花条件が温度、日長以外に低温感応が必要な品種が多く、複雑である（ように見える）ことにあります。

しかし、ちょっとしたコツ、情報があれば **「簡単に」** 栽培が可能です。

このページでは一般的に言われている宿根草の開花調整と Syngenta品種の開花調整について説明します。

一般的な宿根草の開花条件

*宿根草の開花調節、農山漁村文化協会

原著：Royal Heinz *et al.* 訳：金、大川、古在

宿根草は植物的な分類ではないため、一つ一つの植物の開花特性を知ることが重要です。宿根草の専門書*では下記のように分類されています。

【日長条件】

質的長日植物・・・短日で開花しない

量的長日植物・・・長日で花が多くなる、開花までの日数が短縮される

中生植物・・・・・・・・日長に関係なく開花する

【低温要求】

低温が不要・・・・・・・・開花に低温が必要ではない

低温の効果あり・・・低温により、開花を促進できる

低温が必要・・・・・・・・低温に当たらないと開花しない

少し複雑です・・・

Syngentaの宿根草は？

Syngentaの宿根草を成田シードセンターで試験を行いました。
複雑性を排除するため、自然日長での試験の実施し、下記4つに分類しました。

- ：高温栽培によるメリットがある。
- ：低温栽培も高温栽培も変わらない
- △：高温栽培により開花はするが不具合がある
- ×：低温処理必須

低温栽培は5℃設定、高温栽培は15℃設定です。
総合カタログ宿根草特集ページに詳しく説明しています。

○：高温栽培によるメリットがある。

高温栽培により開花が早まる品種群です。栽培温度で開花調整ができるため、早期出荷が見込めます。また、低温感応が不要なため、比較的栽培日数が短いという特徴にもつながります。



5°C設定



15°C設定

アルメリア'アルマダ'

2019/2/7撮影

□ : 低温栽培も高温栽培も変わらない

低温栽培も高温栽培でも開花時期が変わらない品種群です。栽培温度による開花調整が困難ですが、「他の作目に合わせた温度設定ができる」という利点につながります。

2019/2/7撮影



5°C設定



15°C設定

エリシマム'カナリー'

△ : 高温栽培により開花はするが不具合がある

高温栽培で開花はするが、開花が遅れる、花数が少ない、株が乱れるなどの欠点が見られる品種群です。一方、高温管理を始めるタイミングを間違わなければ、開花を早められるなど低温感応による利点を享受することもできます。

2019/2/26撮影



5°C設定



15°C設定

フチンシア'アイスキューブ'

×：低温処理必須

低温処理が必須な品種群です。必ず低温に当ててください。
一般に、10週間以上、夜間5℃以下の低温に当てる必要があると言われてています。



2019/5/14撮影

5℃設定

15℃設定

ラベンダー'ブルーセント'

現在販売中の宿根草では他に低温処理が必要な品種は確認されていません。
海外では低温感応がなくても6月ごろ開花するとされています。

宿根草の開花調整は簡単？

宿根草の開花調整は条件が分かれば難しくありません。

- ・ 低温処理の要・不要を確認する
- ・ 管理温度と開花時期の関係を知る
- ・ 日長と開花時期の関係を把握する

ちょっとしたコツ、情報があれば「**簡単に**」栽培が可能です。

FSブルームがご提供するデータベースを使って、より簡単に
より効率的に、栽培してください。

低温栽培は5℃設定、高温栽培は15℃設定です。
総合カタログ宿根草特集ページに詳しく説明しています。

国内試験の意味

宿根草に限らず、植物全般に開花特性は環境（温度・日長など）に左右されます。

そのため、宿根草に関するデータも国外のデータと異なることがあります。

成田シードセンターは日本では平均的な日長の地域に位置するため、自然日長としての試験データも国内の標準的なデータと言えます。

しかし、栽培する地域の日長で結果が異なることがありますので、データを参考に試験栽培を実施してください。